

指揮車兼資機材搬送車 仕様書

令和 7 年度

峡南広域行政組合消防本部

指揮車仕様書

1 総 則

1－1

本仕様書は、峡南広域行政組合消防本部（以下「消防本部」という。）が令和7年度に更新配備する指揮車兼資機材搬送車（以下「指揮車」という。）を製作するために必要な事項を定めるものとする。

1－2

本車両（付属品を含む。以下同じ。）は、道路運送車両法、道路運送車両の保安基準の関係法規及び消防本部仕様に十分適合し、緊急自動車として承認が得られるものであること。

1－3

本車両は、消防本部と製作上細部にわたり十分な打合せを行い、その指示により次の図書等を提出して、その承認を受けたのち製作するものとする。

（1）承認図等（契約締結後4週間以内）各2部

- ア 製作承認図（艤装5面図）
- イ 製作工程表
- ウ 諸元性能一覧表
- エ 艤装部の配線図
- オ デジタル無線機取付け配線図
- カ その他消防本部が指示する図書

（2）車両納入時 各1部

- ア 車両点検整備書及び車両取扱説明書
- イ 装備品、付属品の取扱説明書
- ウ 車両、装備品等の保証書、検査書類等
- エ 作業工程ごとの記録写真
- オ その他消防本部が指示する図書

1－4

本車両の製作工程において、疑義が生じた場合は消防本部の解釈によるものとしてその都度消防本部の指示を受け、疎通を図り製作するものとする。

1－5

本仕様書に明記されていないものは、受注者等公表の標準仕様によるものとする。

1－6

本仕様書により、消防本部が支給する無線装置の構成部品等の設置は、消防本部無線保守業者と協議すること。

1－7

検査は中間検査及び完成検査とし、当消防本部の指示に従い実施する。

なお、検査を受けようとするときは、30日前までに検査日時、場所及び要領を記載した「検査願い」を提出し当消防本部の承認を受けること。

(1) 検査に必要な測定機器は製作者において事前に準備すること。

(2) 中間検査は、本仕様書及び製作工程表等に基づき、艤装半ばに艤装検査及び性能検査を行うこと。

なお、装備品及び付属品を取付けた状態で行い、主要部分の組み立て状況、材料及び各部分の寸法などの検査を行う。

(3) 中間検査時の指摘事項及び確認事項等は全て記録し、発注者に文章で報告することとし、指摘事項に対して双方の解釈に相違がないようにすること。

(4) 中間検査及び完成検査の際、隠ぺい部で確認ができないものは、写真を提出すること。

(5) 完成検査は、納入時に本仕様書及び製作概要図等に基づき、艤装検査（中間検査以降に施工した、艤装品の位置、構造、寸法等の状況）、作動検査（サイレン、赤色警光灯、安全装置、計器類、各装置の作動状況）及び積載品、その他資器材の取付け状況、機能検査並びに乗車定員数検査を行う。

(6) 検査の結果、当消防本部が不相当と認めた場合は協議の上直ちに改修等の措置を講じ、再検査を受けなければならない。

1－8

完成車は、新規検査登録を受け、各部の点検、調整及び清掃手入を十分行ったらうで燃料満タンにして納入すること。

1－9

本車両の納入場所は消防本部とする。

1－10

本車両の納入期限は、令和8年3月25日とする。

ただし、シャーシの法規改正によるモデルチェンジ、生産の遅延、社会情勢の影響により、期限内に納入できない事象が発生した場合は、納期延長について別途協議可能とする。

1－11

受注者は、消防本部職員に対し、消防本部が指示する場所において取扱い説明を行うこと。

なお、資料が必要なときは受注者において必要部数を準備すること。

1-12

完成車の保証期間は納入後1年間とし、使用者が責めを負わない故障などは、受注者の責任において無償で修理、改修及び交換等の必要な処置を講ずること。ただし、メーカーの公表する保証期間が1年を超える箇所については、その期間とする。

なお、設計不良、製作上及び車体本来の欠陥による瑕疵は、使用期間中にわたり保障すること。

1-13

受注者は、車両の製作及び移動にあたっては、事故防止には万全を期し、万一事故が発生した場合は、速やかに当消防本部に連絡するとともに、その際の人的、物的被害については受注者が全ての責任を負うものとする。

1-14

受注者は製作完了後、関東運輸局山梨陸運支局の車両検査に合格し、新規登録手続きを完了させるものとし、その手続き費用を負担するものとする。また、登録、諸費用は、受注者が負担するものとする。

1-15

本仕様書に品名指定のあるものについては、性能・寸法・重量等において、消防本部が同等以上の品質を有するものと認めた時のみ変更することができる。

2 仕様

(1) シャーシ型式

(シャーシのモデルチェンジ等により諸元が変更になる場合は、最新型の諸元とする。)

ア	ロングボディ・ボディ幅ワイド・ミドルルーフ
イ	全 長 4, 800mm以上
ウ	全 幅 1, 800mm以上
エ	全 高 2, 500mm以下
オ	エンジン ガソリンエンジン(2, 500cc以上)
カ	変 速 機 オートマチックトランスミッション
キ	駆動方式 四輪駆動
ク	乗車定員 8名以上
ケ	ド ア 数 5ドア

(2) シャーシ装備品

- ア ワイヤレスキー付(合鍵2本以上)
- イ LED式ヘッドライト

- ウ LED式フォグランプ
- エ ABS装置
- オ 助手席エアバッグ
- カ 後部席冷暖房装置
- キ プライバシーガラス
- ク パワーウインドー
- ケ サイドバイザー
- コ 隊長用確認ミラー
- サ イージークローザー（スライドドア、後部ドア）
- シ 電動格納式ミラー
- ス フロアマット一式
- セ 寒冷地仕様
- ソ 車両積載工具
- タ 車両純正ホイール（フルホイールキャップ）または同等以上品
- チ マッドガード（各ホイールハウス）
- ツ ETC（セットアップ含む）

3 車体艤装

3-1 一般的事項

- （1）車両に使用する材料及び部品等は、特に指定するものを除き、日本産業規格（JIS）及び国際標準化機構（ISO）の規格に適合するものを使用すること。プラスチック類は全て難燃性のものを使用すること。ゴム製品は全て耐油性の合成ゴムを使用すること。木材を使用する場合は、十分乾燥したものを扱い、製作後に変形、歪み等が発生しないこと。
- （2）艤装全般にわたり防水性を考慮すること。特に屋根上取り付け工事は、補強、防水処置を完全にすること。
- （3）車体及び電装品等は、無線機及び積載資機材の使用に支障（無線障害、雑音等）の出ないものを使用すること。
- （4）配線は、容量に十分余裕のあるケーブルを使用し、天井及び側板内等に敷設すること。また、全てのケーブル類は、フレキシブルチューブを有効に用いて配線すること。
- （5）車両の前後左右の荷重配分には十分配慮すること。
- （6）艤装全般にわたり強度を保ちつつ、努めて軽量化を図ること。
- （7）取扱操作が簡単で、点検及び整備が容易に行えること。

3-2 電装品

（1）バッテリー

車両用及び各種資機材電源供給用バッテリーは、車両電装品の使用量を常時確保できるもので、収納部は、容易に点検整備を行うことができる構造とすると共に発生した水素ガス等が車内に滞留しにくいものであること。

(2) ナビゲーションシステム

SDカード式ナビゲーション(最新版)または同等以上のものを設置すること。
また、上空からの俯瞰映像をカーナビに映せるようにすること。

※テレビアンテナの接続はしない。

(3) ドライブレコーダーシステム

前方及び後方を撮影できるものを設置すること。

(4) デジタルルームミラー

後方の状況を映像表示できるルームミラーを設置すること。

(5) 電流計及び電圧計

電流計及び電圧計は、バッテリー容量等に適合するものを取り付け、バッテリーに接続すること。また、計器は他の装置に支障なく、視認容易な位置(ダッシュボード中央)に取り付けること。

(6) 赤色警光灯等

ア 上部には、LED型散光式警光灯(赤色)を設置すること。警光灯は、昼夜間にかかわらず、正面、側面及び斜め方向から容易に確認できるもので、モーターサイレン内蔵型で、標識灯は「峡南消防」とする。

イ 左右サイドには、大阪サイレン製赤色警光灯LFA-200、または同等以上のものを各2つ設置すること。(消防本部の指定する位置とする)

ウ フロントグリル部に大阪サイレン製赤色警光灯LFA-50または同等以上のものを設置すること。(消防本部の指定する位置とする)

エ バックドアに大阪サイレン製赤色警光灯LFA-300または同等以上のものを設置すること。(消防本部の指定する位置とする)

(7) 電子サイレンアンプ

大阪サイレン製Mark-D1(音声合成付き)・専用マイクMC-D1Lまたは同等以上のものをダッシュボード中央に設置すること。なお、音声合成内容は標準装備及び消防本部が指示するものとする。

ア 取付位置は、運転席及び助手席双方から容易に操作できる位置とする。

イ 車両のキースイッチがACCの位置で電源が入り、作動可能となること。

ウ 電子サイレン吹鳴時には、全ての赤色警告灯、赤色点滅灯の点灯と連動するものとする。

エ スピーカー(50W型)は2個以上取り付けること。

オ 出場予告メッセージ、左右折メッセージ、後退メッセージは、アンプの音声合成でON・OFFできるようにすること。

(8) 作業灯等

ア 車両左右の上部に大阪サイレン製作業灯LIA-200または同等以上のものを各2個設置すること。なお助手席側の作業灯は後述のサイドオーニングの下部に設置すること。

イ バックドア上部に大阪サイレン製作業灯LIA-200または同等以上のものを1個設置すること。

ウ バックドアの内側にLED室内灯を設け、ドア開放時に活用する。

エ 車内のテーブル上部、荷室上部にＬＥＤ室内灯を設けること。

(9) 運転室増設スイッチ等

ア モーターサイレン用スイッチを運転席及び助手席の操作しやすい位置に設置すること。

イ 左右作業灯スイッチを中央の操作しやすい位置に設置すること。

ウ インバーター用スイッチを中央の操作しやすい位置に設置すること。

(10) コンセント等

ア 車内に正弦波インバーター（１０００Ｗ）を設けること。

イ ＡＣ１００Ｖ用コンセント（外部電源時とインバーター使用時共用とする）

室内 ２口を３個

外部（抜け止め付） ２口を１個

ウ 各コンセントの電圧は、大きな負荷の変動があっても、電圧変動を最小限にすること。

エ 各コンセントには、電源の種別、使用可能電力等の表示を取付部に明記すること。

オ 外部電源接続用コンセント（外部電源⇒車両充電用、ＡＣ１００Ｖ）は、埋め込み式、防水製の蓋付のもので、接続コードを車体に接続する場合はマグネット式で容易に接続できるものとする。

外部電源接続コード（１０ｍ）付きで、外部電源入力時は、エンジンが始動しない構造とし、確認ランプを設けること。

カ 外部電源接続時は、車両のバッテリーを充電する全自動充電器を取付けること。

(11) 時計

後部座席から視認しやすい位置にＤＣ１２Ｖデジタル電波時計（バックライト付）を設置すること。

(12) マップランプ

助手席ピラー部にＬＥＤフレキシブルマップランプを設置すること。

(13) リヤホイール灯

リヤホイール灯（ＬＥＤ）を取り付け、点灯はスモールライトと連動させること。

３－３ 無線機等

(1) 無線機

車両に取り付けるデジタル消防無線構成装置は、旧車両（トヨタ・バンガード）からの載せ替えとする。なお、載せ替えに伴い車両内配線に係る次のもの及び設備は新品とすること。

ア 穴あけ式アンテナ

イ アンテナケーブル

ウ 後部用無線ケーブル

エ 電源ケーブル

オ 無線用スピーカーを埋め込み型で前1個、後1個設置すること。

カ 増設ハンドセット

- (2) 無線機は、助手席及び後部座席で使えるよう各箇所に設置し、各構成機器は別途指示する位置に取付けること。なお、特に取付け方法が規定されている機器（アンテナ等）については、それを考慮し取り付けること。
- (3) 無線機器類の設置により他の装置、車両の保守管理等に支障が生じないものであること。
- (4) 運転室内天井部分及び後部座席上部付近に無線モニター用スピーカーを設置すること。
- (5) デジタル無線のアンテナは、車両屋根部に穴あけ式アンテナを設置するが、屋根部に設置するルーフラックを避け、電波が有効に伝播する箇所に設けること。なお、取付け位置に疑義がある際は担当者と協議すること。

3-4 後部室内設備

後部座席前に折りたたみが可能なテーブルを消防本部の指定するサイズで設置すること。テーブルの前面に消防地図等を上から立てられる収納、無線機を設置するスペースを設け、車両振動に対して動作等に支障のない構造とすること。

また、助手席後部にモニター（21インチ程度、モニターアーム付き、脱着式）を設置すること。

3-5 床

床は雨天時の消防活動等で室内が漏れても滑りにくい素材（ロンリ्यूーム貼り）とし、清掃等に耐える十分な防水処置を施すこと。

3-6 座席

- (1) 各座席は、良質なビニールレザー張りとする。
- (2) 各座席にはシートベルトが装備されていること。
- (3) 後部座席は2人掛け席と跳ね上げ式単席を設けること。
- (4) 最後部（積載スペース）の助手席側に跳ね上げ式座席を3席分設けること。
- (5) 各座席にはシートカバー（PVC製）を取付けること。

3-7 バックドア

- (1) はね上げ式ドアの場合は、容易に開閉ができるようにドア下部にハンドル等を取り付けること。
- (2) バックドアの内側に反射テープを貼付すること。
- (3) 3-2（8）記載内容を設置すること。

3-8 窓

後部席両側及び後部ドア部は、黒色フィルムにより、車外から車内が容易に見えないこと。

3-9 資機材収納棚

- (1) 後部荷室に、タイヤハウスを回避する程度の嵩上げ台（二分割式）を設けること。嵩上げ台は最後部席を使用する際は重ねて使用できるようにすること。
- (2) 嵩上げ台は脱着できる構造とし、乗ることも想定されるため十分な強度を有すること。なお、上部は床材と同等のロンリューム貼りとし、エアラインレールを埋め込み、資機材等が固定できるようにすること。
- (3) 嵩上げ台の下部には、折りたたみの指揮盤が収納できるようにすること。
- (4) 詳細は別途協議とする。

3-10 室内上部

- (1) 後部荷室の上部には、防火衣等が掛けられるステンレス製のパイプを2本設けること。
- (2) パイプは可動式とし、任意の位置で固定でき、高さ等変更できるようにすること。
- (3) パイプにはS字フックを5個設けること。
- (4) 室内上部の側面には、ネットシェルフを左右に設けること。

3-11 屋根

- (1) 屋根にはルーフデッキを設けること。ルーフデッキの周囲には欄干を設け、床にはアルミ縞板を貼ること。（レインガーター取付け型。サイズについては別途協議とする）
- (2) バックドアにルーフラックに昇降できるラダーを取付けること。

3-12 その他の設備

- (1) 消防章
車両前部中央に消防章を1個取付けること。
- (2) 消火器
自動車用粉末消火器（6型）を固定金具にて他の装置及び消防活動に支障のない位置に取付け、取出しが容易であること。
- (3) ヒッチメンバー
車両後部にヒッチメンバー（ステンレス製）を取付けること。車両の新規登録時に950登録をすること。
なお、車両総重量350kg以上のトレーラーのけん引を可能とすること。
- (4) 車両上部左側にサイドオーニング（長さ3m）を取付けること。
- (5) 後部サスペンション
積載荷重を考慮し、サスペンションを強化し、リア下がりをする限り防止すること。

4 塗装

- (1) 車体は朱色とする。（バンパー含む）

(2) 塗装要領

車体は、特殊化学品にて錆落としのうえ、プライマー、パテ、水磨き、サフエーサを施工後、熱風乾燥炉にて乾燥させてからウレタン系塗装に吹き付けを行い、再び熱風乾燥炉にて乾燥させること。

(3) 全周の防錆対策を徹底するとともに下回り防錆塗装を実施すること。

(4) 永年にわたり変色、亀裂、はがれ、浮き上がりのない塗装処置を施すこと。

(5) 仕上げ磨きを十分にすること。

5 車体標識等

(1) 車両標識

ア 車体両側面に「峡南消防本部」と丸ゴシック体（白色反射）で表示する。

イ 車体前部右側に「本部 6」と丸ゴシック体（白色反射）で表示する。

ウ 車体後部ナンバープレート上部に「峡南消防本部」を表示する。

また、下部右側に「本部 6」と丸ゴシック体で各文字はバランスよく表示し、白色反射とする。

エ 対空表示は、車体上部に「峡南本部 6」と丸ゴシック体（白色）で表示する。

オ 文字サイズは別途協議とする。

(2) ドア開放及びステップ等に開放時危険防止のため赤色反射テープを縁部に取付けること。

(3) 記入文字、反射テープはカッティングシートを使用すること。

6 車両付属品

(1) スタッドレスタイヤ（車両純正ホイール付） 4 本

(2) タイヤチェーン 1 式（4 輪）

スタッドレスタイヤに合うものとし、ゴム製のワンタッチ装着できるものとする。

(3) 車輪止（ゴム製） 1 組

(4) 補修用塗料 使用各色（0.2 L 以上） 各 1 個

(5) 三角停止標示板 道路交通法適合品 1 個